

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成28年4月14日 (2016.4.14)

【公表番号】特表2015-514787(P2015-514787A)

【公表日】平成27年5月21日 (2015.5.21)

【年通号数】公開・登録公報2015-034

【出願番号】特願2015-507419(P2015-507419)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/898 (2006.01)

A 6 1 K 8/31 (2006.01)

A 6 1 K 8/37 (2006.01)

A 6 1 K 8/58 (2006.01)

A 6 1 K 8/89 (2006.01)

A 6 1 K 8/64 (2006.01)

A 6 1 K 8/42 (2006.01)

A 6 1 Q 5/12 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 8/898

A 6 1 K 8/31

A 6 1 K 8/37

A 6 1 K 8/58

A 6 1 K 8/89

A 6 1 K 8/64

A 6 1 K 8/42

A 6 1 Q 5/12

【手続補正書】

【提出日】平成28年2月25日 (2016.2.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

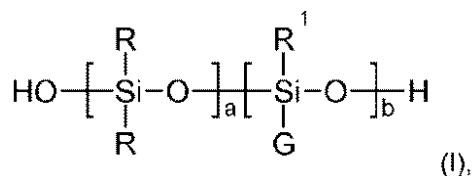
【請求項 1】

化粧品的に許容される媒体中に以下の (a) および (b) を含有する化粧品組成物：

(a) 合成油、鉱物油、植物油、フッ素化またはペルフルオロ化油、天然または合成ワックス、セラミド型の化合物、カルボン酸エステル、式 (I) のシリコーンとは異なるシリコーン、アニオン性ポリマー、非イオン性ポリマー、カチオン性ポリマー、両性ポリマー、カチオン性タンパク質、カチオン性タンパク質加水分解物、カチオン性界面活性物質およびこれら種々の化合物の混合物から選択される少なくとも一つのコンディショニング剤、および

(b) 少なくとも 1 つの、一般式 (I) のヒドロキシ - 末端化オルガノポリシロキサン

【化 1】



式中、

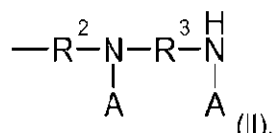
R は、1～20個の炭素原子を有する、一価の未置換または八口置換炭化水素基を意味し、

R<sup>1</sup> は、1～20個の炭素原子を有する、一価の未置換または八口置換炭化水素基、-OR<sup>4</sup> または -OH を意味し、

R<sup>4</sup> は、1～6個の炭素原子を有するアルキル基を意味し、

G は、一般式 (I I) の基を意味し、

【化2】



式中、

R<sup>2</sup>、R<sup>3</sup> は、互いに独立して、1～6個の炭素原子を有する二価の炭化水素基を意味し、非隣接 -CH<sub>2</sub> ユニットは、-C(=O)-、-O- 及び -S- から選択されるユニットにより置換され得る、

A は、R<sup>5</sup> - C(=O) - を意味し、

R<sup>5</sup> は、1～20個の炭素原子を有するアルキル基を意味し、

a は、100～1500の整数を意味し、

b は、少なくとも1の整数を意味する。

【請求項2】

少なくとも1つの一般式 (I) のヒドロキシ - 末端化オルガノポリシロキサンにおける R が、メチル基、エチル基、n-プロピル基、イソプロピル基、n-ブチル基、イソブチル基、sec-ブチル基、tert-ブチル基、n-ペンチル基、n-ヘキシル基から選択され、R は特に好ましくはメチルを示す該ヒドロキシ - 末端化オルガノポリシロキサンを含有することを特徴とする、請求項1に記載の化粧品組成物。

【請求項3】

少なくとも1つの一般式 (I) のヒドロキシ - 末端化オルガノポリシロキサンにおける基 R<sup>2</sup> および R<sup>3</sup> が、エチレン、n-プロピレン、イソ-ブチレンまたは n-ブチレン基から選択される該ヒドロキシ - 末端化オルガノポリシロキサンを含有することを特徴とする、請求項1または2のいずれか1項に記載の化粧品組成物。

【請求項4】

少なくとも1つの一般式 (I) のヒドロキシ - 末端化オルガノポリシロキサンにおける R<sup>5</sup> がメチル基、エチル基、n-プロピル基、イソプロピル基、n-ブチル基、イソブチル基、sec-ブチル基、tert-ブチル基、n-ペンチル基、n-ヘキシル基から選択され、式中、R<sup>5</sup> は、特に好ましくは、メチル、エチルを示す該ヒドロキシ - 末端化オルガノポリシロキサンを含有することを特徴とする、請求項1～3のいずれか1項に記載の化粧品組成物。

【請求項5】

化粧品組成物の重量に対して、0.00001～10wt%、好ましくは、0.0001～7.5wt%、より好ましくは0.001～5wt%、さらに好ましくは0.01～3wt%、および特に0.1～1wt%の、式 (I) のヒドロキシ - 末端化オルガノポリシロキサンを含有することを特徴とする、請求項1～4のいずれか1項に記載の化粧品組成物。

【請求項6】

化粧品組成物の重量に対して、0.00001～5wt%、好ましくは、0.0001～3.5wt%、より好ましくは0.001～2wt%、さらに好ましくは0.01～1wt%、および特に、0.1～0.5wt%の、分岐、エトキシ化トリデカノール (INCI名: Trideceth-5) または -イソ-トリデシル- -ヒドロキシポリグリコールエーテル (INCI名: Trideceth-10) またはそれらの混合物を含有することを特徴とする、請求項1～5のいずれか1項に記載の化粧品組成物。

## 【請求項 7】

一般式 (I) のヒドロキシ - 末端化オルガノポリシロキサン<sup>1</sup>の重量平均モル質量が、 $2000 \sim 1000000 \text{ g mol}^{-1}$ 、好ましくは  $5000 \sim 200000 \text{ g mol}^{-1}$  の範囲にあることを特徴とする、請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の化粧品組成物。

## 【請求項 8】

一般式 (I) のヒドロキシ - 末端化オルガノポリシロキサンが、水中油型エマルジョン<sup>2</sup>の形態をとり、エマルジョン中のシリコーン<sup>3</sup>粒子の数平均サイズが  $3 \text{ nm} \sim 500 \text{ nm}$  の間、好ましくは  $5 \text{ nm} \sim 60 \text{ nm}$  の範囲であることを特徴とする、請求項 1 ~ 7 のいずれか 1 項に記載の化粧品組成物。

## 【請求項 9】

植物油が、ひまわり油、コーン油、ダイズ油、アボカド油、ホホバ油、カボチャ種子油、グレープシード油、ゴマ油、ヘーゼルナッツ油、魚油、グリセロールトリカプロカプリレートまたは式  $\text{R}^9\text{COOR}^{10}$  (式中、 $\text{R}^9$  は 7 ~ 29 個の炭素原子を有する高級脂肪酸の基を意味し、 $\text{R}^{10}$  は、3 ~ 30 個の炭素原子を有する直鎖または分枝炭化水素鎖を意味する) の植物油もしくは動物油、天然または合成エッセンシャルオイルから選ばれることを特徴とする、請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載の化粧品組成物。

## 【請求項 10】

ワックスまたは複数のワックスが、カルナウバワックス、キャンデリラワックス、アルファワックス、パラフィンワックス、オゾケライト、植物ワックス、動物性ワックス、ポリエチレンワックスまたはポリオレフィンワックスから選択されることを特徴とする、請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載の化粧品組成物。

## 【請求項 11】

カルボン酸エステルが、エチルパルミテートおよびイソプロピルパルミテート、2 - エチルヘキシルパルミテート、2 - オクチルデシルパルミテート、アルキルミリステート、ヘキシルステアレート、ブチルステアレート、イソブチルステアレート；ジオクチルマレエート、ヘキシルラウレート；2 - ヘキシルデシルラウレート、イソノニルイソノナンオエートおよびセチルオクタノエートから選択されることを特徴とする、請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載の化粧品組成物。

## 【請求項 12】

単独でまたは組み合わせて使用されるシリコーンが、以下の構造を有するものから選択されることを特徴とする、請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載の化粧品組成物：

ポリジメチルシロキサン、

ポリジメチルシロキサン/メチルビニルシロキサン、

ポリジメチルシロキサン/ジフェニルシロキサン、

ポリジメチルシロキサン/フェニルメチルシロキサン、

ポリジメチルシロキサン/ジフェニルシロキサン/メチルビニルシロキサンおよび以下の混合物：

鎖末端ヒドロキシル化ポリジメチルシロキサンおよび環状ポリジメチルシロキサンからなる混合物、

ポリジメチルシロキサングムおよび環状シリコーンからなる混合物、ならびに  
様々な粘度のポリジメチルシロキサンの混合物。

## 【請求項 13】

組成物の総重量に対して、コンディショニング剤を  $0.001 \sim 20 \text{ wt} \%$ 、好ましくは  $0.01 \sim 15 \text{ wt} \%$ 、さらに好ましくは  $0.1 \sim 10 \text{ wt} \%$ 、および特に  $0.25 \sim 5 \text{ wt} \%$  の総量で含有することを特徴とする、請求項 1 ~ 12 のいずれか 1 項に記載の化粧品組成物。

## 【請求項 14】

ケラチン繊維の処理方法であって、請求項 1 ~ 13 のいずれか 1 項に記載のヘア処理剤をケラチン繊維に施し、数秒から最大 45 分までの曝露期間の後、洗浄して取り除くことを特徴とする、処理方法。

## 【請求項 15】

請求項 1 ～ 13 のいずれか 1 項に記載の組成物の以下に記載のことへの使用：

- ケラチンコンディショニング物質、および/または
- ポリューム、柔らかさ、光沢および/または櫛通りの改善およびケラチン物質のスタイリングを容易にするため、および/または
- 洗髪におけるコンディショニング作用の持続性を向上させるため、および/または
- 湿潤および乾燥櫛通りを改善するため、および/または
- 光沢を改善するため、および/または
- ケラチン繊維の水分バランスを改善するため、および/または
- 酸化的損傷からケラチン繊維を保護するため、および/または
- ケラチン繊維が再び脂汚れすることを防止するため、および/または
- 染色ケラチン繊維の洗浄耐久性を高めるため。